

2025年度事業報告書

特定非営利活動法人ダイバーシティサッカー協会

I 事業期間

2025年4月1日～2026年3月31日

II 事業の成果

1 スポーツや文化・芸術活動を通じた居場所づくり応援事業

ホームレス状態の当事者や経験者が参加する東西の野武士ジャパンの運営サポートを継続するとともに、多様な背景や困難を抱える人たちのスポーツを通じた居場所づくりや担い手の育成を進めた。

東京・大阪での定期練習会に加え、知的・精神障害の当事者や関係者が参加する「リカバリーの学校@くにたち」や「こりかフットボールDAY」、MKBカップやHalfTime CUPなど他団体が主催するイベントに参加・協力した。また、移民・難民フェスティバルへの参加や、難民・外国ルーツの人たちとの交流を通じて、新たな参加者や連携団体とのつながりが生まれた。

また、ホームレス・ワールドカップへの挑戦をきっかけとして活動に関心を持つ人や団体が増え、サッカーを通じた居場所づくりの輪が広がった。ホームレス・ワールドカップのための練習会を候補者だけに閉じず、広く若者支援団体の利用者や難民・移民などが参加できる「新しい居場所」として開催し、また東京野武士の練習とも接続することで、多様な背景を持つ人たちが継続的に交流できる環境づくりが進んだことは大きな成果であった。

また、長年検討を進めていた担い手育成に向けたモデル的活動も新たに始まった。誰もが安心して参加でき、スポーツで仲間はずれを生まない場づくりを担う「プレイフルスポーツ・コーディネーター」を養成するための講習会を試験的に実施した。具体的には、後述するクラウドファンディングのリターンとして講習をした他、ダイバーシティサッカー・フェスティバルの前後での座学や体験会などを通じて、30名以上の受講実績をあげた。

2 ダイバーシティサッカー大会(国内事業)

多様な背景や困難を抱える当事者やその支援者が、チームとして定期的に対戦し交流する「ダイバーシティリーグ」について、埼玉で1回のみではあるものの、開催することができた。昨年度に引き続き、宮代町内にある「新しい村」にて、ウォーキングフットボールを中心とした交流を行った。県内の就労支援施設の利用者が多数参加し、昨年からの継続的な参加者もみられた。

大きな大会としては、2026年3月に第3回目となるダイバーシティサッカー・フェスティバルを開催した。継続して参加するホームレス状態の経験者や若者支援団体、精神障害の当事者団体に加え、アフリカ出身者のチームやウクライナ出身で日本に避難する人、ホームレス・ワールドカップのキルギスのパートナー団体も参加するなど、例年以上に国際色豊かであった。また、新たに知的・発達障害がある女子チームも出場するなど、多様な人々が同じフィールドで出会う機会となった。加えて名古屋から初めてフェスティバルに参加するチームもあり、大阪や宮城から参加したチームなどとの宿泊を伴う交流企画を通じて、分野・地域横断的な接点の拡大に寄与した。

3 ホームレス・ワールドカップ(国際大会)など海外大会への選手派遣事業

2025年8月にノルウェー・オスロで開催されたホームレス・ワールドカップ2025に日本チームを派遣した。日本チームとしては初の2年連続出場となった。今年度は、練習会の時点で、外国出身者などの参加を積極的にうながした。ホームレス状態や不安定居住を経験した人に加え、ウクライナからの避難民を選手として迎え、日本チームとして初めて外国出身選手を含むチーム編成に挑戦した。また、若者支援団体、生活困窮者支援団体、依存症回復支援団体など、多様なパートナー団体から選手推薦を受けながらチームを構成し、国内の支援ネットワークとの連携をさらに深めることができた。

チームには選手8名に加え、監督・コーチ・運営スタッフが帯同したほか、ビッグイシュー誌の元販売者で野武士ジャパン東京チームのメンバーの花渕信氏がピアサポートスタッフとして帯同した。主

に選手の心理的なサポートや道具の運搬等の補助を行い、多様な背景を持つ選手たちが安心して大会に参加できる体制づくりに大きく貢献した。

渡航費や国内活動費について、当協会として初めてクラウドファンディングを実施した。第一目標額350万円、第二目標額550万円、最終目標額1,000万円に対し、のべ627名から10,381,000円の寄付が集まった。、ホームレス・ワールドカップ日本チーム派遣事業に対する社会的な関心を集めるとともに、当協会への認知度を高めることができた。READYFOR15周年記念アワードの「プロジェクト100選」に選出されるなど、社会的な評価も得ることができた。

加えて、一般社団法人daimon、合同会社肩車をはじめとした企業・団体からスポンサー協力を受けたほか、株式会社LIFULLによるデザイン協力、株式会社VASALLOによるウェア制作協力など、多様な企業・団体との連携のもとで事業を実施した。

本大会では怪我や体調不良による欠場などの困難もあったが、選手・スタッフ同士の対話を重ねながら8日間で10試合を戦い抜き、Tier4 (Gatefootball Cup)において6位(全体で30位)の成績を収めた。勝敗や最終順位以上に、多様な背景を持つ選手とスタッフが相互理解を深め、大会後もそれぞれのチャレンジを応援し続ける体制を構築できたことが大きな成果であった。

また、大会を通じて見えてきた課題として、出発前から選手同士や選手を推薦する支援団体が派遣目的や価値観をより深く共有する機会や、日常的かつ継続的な交流と成長の機会をさらに充実させる必要性も確認された。次回以降の大会を見据えて、定期的な交流会やリーグ戦、フェスティバル、コーディネーター講習会等を通じて関係性を育み、国内活動でも当事者同士の支え合いが生まれる環境づくりを推進する。

4 調査・研究・広報事業

ホームページやSNSを通じた情報発信を継続したほか、主にホームレス・ワールドカップ2025オスロ大会に関連した広報活動や報告会を実施した。

特に、クラウドファンディングや大会派遣を通じて、ホームレス状態や不安定居住、難民・避難民などを取り巻く社会課題について広く発信する機会となり、それをきっかけにメディア出演や、日本サッカー協会や大学、自治体等での招待講演の機会を多く得ることができた。また、大会報告書や活動報告会を通じて、オスロ大会に出場した日本チームの活動に加え、国内での活動にも関心を寄せてもらうきっかけづくりを行った。

調査・研究では、一般社団法人daimonおよび琉球大学の系数温子氏がクラウドファンディングの過程や本大会に帯同して調査を行い、その成果を日本社会学会大会で報告した。またインターン生の一橋大学大学院修士課程の鈴木康正氏および李知謙氏が2年間の参与観察を元にそれぞれ修士論文を執筆・提出した。いずれも当協会が取り組むスポーツを通じた居場所づくりによって社会的包摂を推進するプロセスについて、理論的・実践的な意義や可能性を提示するもので、今後の活動に大きな示唆がある研究であった。

2023年度と2024年度の活動やリーグ戦参加者のデータをまとめたアニュアルレポートは、インターン生や外部のデザイナーの協力を得ながらライティングやデザインを進め、2か年の取り組みのレポートとして発行した。

さらに、活動の記録や成果の整理を進めるとともに、今後のスポーツを通じた居場所づくりやプレイルスポーツ・コーディネーターの育成に活かすための知見の蓄積を行った。

Ⅲ 事業の実施状況

1 特定非営利活動に係る事業

(1) スポーツや文化・芸術活動を通じた居場所づくり応援事業

(内容)

・野武士ジャパン運営サポート

毎月第2、第4土曜日に東京(@住吉公園、9:30-11:30)と大阪(@扇町公園、18:00-20:00)で、ホームレス状態の当事者・経験者が中心のチームの通常練習の運営をサポート。東京で計14回のべ136人、大阪で計20回のべ263人が参加した。

- ・オンラインプログラムと環境整備
パソコンと通信機器の貸し出しを継続した。
- ・新たな地域での居場所づくりのサポートやパートナー団体との連携事業
移民・難民フェスに野武士東京のメンバーが参加(10人)

リカバリーの学校@くにたち(延べ66人参加)

10/13:ダイバーシティサッカー体験会@国立学園(10人参加)

11/30:プレイフルスポーツ体験会@一橋大学体育館(11人参加)

12/21:ダイバーシティサッカー体験会@一橋大学体育館(9人参加)

10/26:アフリカ出身者によるサッカー交流会@Big Forest 印西(27人参加)

11/01:第11回Half Time CUPに野武士大阪が参加(6人参加)

11/03:MKBカップ2025に野武士東京が参加(15人参加)

11/29:こころカフットボールDAY@富士森体育館メインアリーナ(30人参加)

12/28:蹴り納めフットサル交流会@フットスクエア門前仲町(24人参加)

01/24:トモフトフットサル交流会@HONDA FOOTBALL AREA(50人参加)

03/29:ダイバーシティサッカー体験会@もりのみやキューズモールBASE(14人参加)

- ・プレイフル・スポーツコーディネーター講習会の開催

09/04:初級コース@産業能率大学

03/07:初級コース@BumB 東京スポーツ文化館

03/25:初級コース(大阪メンバー)@オンライン

(収益) 0円

(費用) 535,426円

(2) ダイバーシティサッカー大会(国内事業)

(内容)

- ・ダイバーシティリーグの開催

フットサル交流会「ダイバーシティリーグ」を埼玉で開催

11/22:ダイバーシティリーグ埼玉大会@新しい村(53人参加)

- ・ダイバーシティサッカー・フェスティバルの開催

関東を中心に、宮城や大阪、名古屋から、ホームレス状態の経験者や若者支援団体、精神障害の当事者団体、アフリカ出身者のチームやウクライナ出身で日本に避難する人、ホームレス・ワールドカップのキルギスのパートナー団体、知的・発達障害がある女子チーム、依存症回復施設などが参加した。ミズノフットサルプラザBumBで行い、計15チーム、約150人が集った。また、遠方から参加するチームを対象に、オリンピックセンターでの宿泊場所を提供し交流会を実施した。

(収 益) 0円
(費 用) 1,319,099円

(3) ホームレス・ワールドカップ(国際大会)など海外大会への選手派遣事業
(内容)

- ・ホームレス・ワールドカップ2025オスロ大会への日本チーム派遣
選考練習会 04/27@ミズノフットサルプラザBumB(35人参加)
06/01@ミズノフットサルプラザBumB(37人参加)
06/29@トライフットボールフィールド(40人参加)
07/27@トライフットボールフィールド(30人参加)
記者発表会 08/09@BumB 東京スポーツ文化館
代表合宿 09/07&08@ミズノフットサルプラザBumB &トライフットボールフィールド
(延べ65人参加)
本大会 08/21~31@ノルウェーオスロ市庁舎前広場(選手8人、スタッフ8人)
帰国報告会 10/13@BumB 東京スポーツ文化館(40人参加)
&交流会

(収 益) 0円
(費 用) 7,469,156 円

(4) 調査・研究・広報事業
(内容)

- ・2023年-2025年活動報告書
当協会への活動の理解を広めるため、2023年度および2024年度の活動についてのまとめた報告書を2000部発行した。寄付者や連携するパートナー団体、活動への参加者等に広く配布した。
- ・イベント登壇
06/18: ホームレス・ワールドカップ決起集会2025~オスロ大会を目指して~@オンライン
11/19: 日本サッカー協会 アスパス! サロン(11月)@JFAハウス
12/26: 多文化共修を推進するための講演会@関西大学高槻キャンパス
01/31: 「共に学び、生きる共生社会コンファレンス」@国立での分科会「ダイバーシティサッカー体験会~『プレイフルスポーツ・コーディネーター』とは~」
02/11: インクルージョンの現場を目撃せよ! 福祉×スポーツ@桜美林大学
03/12: 東京都教育庁主催 人権学習指導者研修@東京都教職員研修センター
- ・メディア掲載一覧
06/12 JFNラジオ『OH! HAPPY MORNING』: OH! HAPPY TALK
06/20 J-WAVE「JK RADIO TOKYO UNITED」: 「EYES ON THE FUTURE」「すべての人を包み込む社会」を目指して活動している【NPO法人ダイバーシティサッカー協会】に注目
06/24 NHKラジオ「マイあさ!」: けさの「聞きたい」「ホームレスワールドカップ」
10/15 ビッグイシュー日本版513号: 平和と連帯—— ホームレスW杯オスロ大会
11/07 産経新聞: 戒厳令下のウクライナに戻らない決断「自然」で心身保つ避難民の男性
02/17 朝日放送「NEWSおかえり」: 増加する若者の“ホームレス” ネットカフェなど利用で「見えない“貧困”」に 支援受け再スタートする男性に密着取材
03/09 SPORTSCORE: 「福祉×スポーツ」を体現する2団体が特別講演! ダイバーシティサッカーとBaseball5が創出する共生社会を学ぶ

・その他

HPの運用、ニュースレターの送付、アンバサダー・協力団体との打合せ、各種メディアへの取材対応や記事執筆、SNSでの情報発信などを適宜実施。また、クラウドファンディングのプラットフォーム「READYFOR」上での多数の活動報告や応援メッセージの掲載を行った。

(収益) 0円
(費用) 469,656 円

IV 社員総会の開催状況

2025年度通常総会

(日 時) 2025年6月20日 21時00分から22時00分

(場 所) 代表自宅およびオンライン開催(Zoomを使用)

(社員総数) 13名

(出席者数) 7名(うちオンライン出席4名、表決委任2名)

(内 容) 第1号議案 任期満了に伴う役員の改選

議長より、任期満了に伴う以下の役員の改選について発議され、審議の結果、参加社員の挙手評決により可決

理事 鈴木直文

理事 竹内佑一

理事 長谷川知広

理事 樋田翔

理事 蛭間芳樹

監事 関口宏聡

第2号議案 2024年度事業報告・決算案の件

審議の結果、参加社員の挙手評決により可決

第3号議案 2025年度事業計画・予算案の報告

第4号議案 議事録署名人の選任の件

協議事項 会計年度の変更

理事および事務局体制について

認定NPO法人化

V 理事会その他の役員会の開催状況

2025年度第1回理事会

(日 時) 2025年6月20日 20時00分から20時59分

(場 所) 代表自宅およびオンライン開催(Zoomを使用)

(理事・監事総数) 理事6名 監事1名

(出席者数) 理事4名 監事0名(うちオンライン出席者2名)

(内 容) 第1号議案 2024年度事業報告・決算案の件

審議の結果、参加理事の挙手評決により可決

第2号議案 2025年度事業計画・予算案の件

審議の結果、参加理事の挙手評決により可決

第3号議案 議事録署名人の選任の件

協議事項 会計年度の変更

理事および事務局体制について

認定NPO法人化